卓　越　し　た　技　能　者

氏　名（年齢）	職　名	団体名・現住所	功　績　の　概　要
伊 藤　和 幸 （　61 歳） 	板金工	**伊藤板金** 苫小牧市	昭和57年より板金工に従事し、優秀な技術を習得した。ベンチレーターのような複雑な形状の製品作成で、屋根勾配に応じた展開図をパターン化することによって納期、コストを削減したほか、蟻掛け葺きの馳・吊り子の内外に防水テープを入れて防水性と耐風圧性に優れた施工方法を考案する等、創意工夫により生産能率の増進に貢献した。 １級建築板金技能士、職業訓練指導員の資格を取得し、技能検定の事前講習会にて製図の展開の解説や加工技術等の指導を行い、後進技能士の育成に尽力した。近年は、技能検定委員として技能者の資質向上の一翼を担っている。 また、ものづくりマイスターとして、技能祭においてものづくり体験コーナーで子どもたちに銅板レリーフや銅板の折り鶴作成の講習を行っている。 現在も現場で確認指導する傍ら、各団体で役員として中心的役割を担い業界の発展向上に尽力している。
伊 藤　誠 （　67 歳） 	大工	住建イトウ 苫小牧市	昭和50年地元の建設会社に入社、働きながら帯広建築高等職業訓練校に入校し、建築大工一筋に技術・技能の習得研鑽に励んだ。伝統技術と最新施工技術を融合させた熟練の技を磨き上げ、特に和室の床の間などの造作や近年の主流となっている住宅リフォーム・リノベーションにおいては、精緻で丁寧な仕上がりに定評がある。長年にわたり技能検定委員として技能検定制度の普及啓発にも大きく貢献し、令和４年には中央職業能力開発協会から表彰を受けている。職業訓練指導員として訓練生を育成したほか、監督者訓練員（ＴＷＩ）の資格を持ち、職業訓練指導員講習の講師として、若年技能者を育てる指導員の育成指導等に尽力した。また、ものづくりマイスターとして工業高校で技術指導に力を注ぎ、次世代の職人育成にも大きく貢献しており、常に現場第一線で活躍しながら、地域と職人の架け橋としての役割も果たしている。
浦 辻　郁 博 （　53 歳） 	塗装工	浦辻塗装（株） 旭川市	平成９年家業である浦辻塗装（株）に入社以来塗装工として技能を磨き、管内の産業発展に貢献してきた。１級塗装技能士をはじめ各種の資格を持ち、一般住宅及び公共事業等の多種多様な現場状況に対応できる知識と技術を身につけた。特にスプレーガンの吹出し量を適正に調整し、均一の速度で平行に運ぶことで色ムラのない仕上がりにする熟練の技は、管内随一といわれている。その吹付塗装の技術を活かし、本来手作業で行う下地用パテ材をタイルガンにて吹き付けてネタくばりを行う工夫により、大面積の壁面の施工を可能にし、作業効率改善、生産性の向上を図るとともに、平滑で美しい塗装面を仕上げることで、建築業界から高く評価されている。 平成27年からは技能検定委員を務め、技能検定の厳正かつ円滑な運営に協力、令和７年から全北海道技能競技大会の２級首席競技委員を務める等、技能者の養成や技能水準の向上に大きく貢献している。
髙 野　篤 生 （　57 歳） 	酒類製造工	曲イ田中酒造（株） 小樽市	平成13年曲イ田中酒造（株）に酒類製造工として入社、技能を研鑽し、１級酒造技能士の資格のほか、令和７年３月末現在国内に164人しかいない清酒専門評価者の認定を受けており、また、（一社）南部杜氏協会から南部杜氏の資格を授与される等、吟醸酒製造の技能は業界の第一人者といわれている。道産酒造好適米を100％使用し、醸造アルコールを添加せず吟醸香と味に優れた純米大吟醸酒「宝川」を考案し、訪日外国人観光客からも高く評価され、北海道の農業や観光振興の一助となっている。 長年の酒造業務の経験を活かして、後輩や若手、新人の教育を担当し、特に業務の基本や衛生管理を徹底して指導している。また、毎月社内で開催する勉強会を主導し、実践教育とともに最新の発酵技術、醸造技術について研究を重ねており、小樽の酒造業界の発展に大いに貢献しているほか道内他地域の手本となっている。
棚 澤　勝 人 （　62 歳） 	塗装工	東栄塗装（株） 苫小牧市	昭和56年高校卒業と同時に父と同じ塗装技能者として生きることを決意し入職。精励克己し、知識や技能を研鑽してきた。現在も率先して現場に出て工程短縮や仕上がりの向上に努めている。特に素地拵え等の下地処理に技能の冴えを見せ、外壁の自然石調塗装では、天候の変化に応じた含水量の調整及び養生に気を配り、大理石貼り工法の仕上がりに劣らぬ施工を行い、高い評価を得ている。 平成７年には職業訓練指導員免許を取得し、長年にわたり事業内訓練に携わってきた。その間初心者へ生きる糧となる技術習得の手助けや仕事への情熱、心構えを伝え、多くの優秀な技能者を育成してきた。また、遊具塗装ボランティアや市民教室の講師を務めてきた。温厚で誠実、包容力に富み、常に率先して事に当たる責任感の強さにより、業界内での信望は極めて厚く、塗装業界における第一人者と目されている。
田 安　透 （　50 歳） 	調理人	日本料理　秋水 札幌市	平成７年に入職以降、30年以上にわたって日々調理技術の向上に努め、数々の資格を取得。カナダ産メープル製品を使った料理コンクール日本料理部門では道産のホタテとエビを使用しグランプリを獲得、勤務していたレストランで提供し好評を博した。また、第６回日本料理コンペティション決勝大会では、国内はじめ韓国、欧州及びアメリカからの参加者の中で優勝を果すなど、国内の主要なコンクールでも数々の賞を受賞している。平成24年には四條司家料理故実御調所の庖匠師範の称号を贈られた。 現在は、自店を主としてその技能を活かす一方、調理師学校講師や北海道給食コンクール審査員長として若い世代の指導育成を行っているほか、市民対象の料理教室や「北海道米LOVE」の企画では道産食材を使ったレシピを提供する等、日本料理の普及と発展に大きく貢献している。
丹 波　勝 行 （　60 歳）	鉄筋工	（株）ソーシン鋼業 札幌市	昭和58年に鉄筋工として入職以来鉄筋加工・組立作業に従事してきた。様々な工法に精通し、どんな現場でもその技能を発揮して若い世代に大きな影響を与えている。早くから加工帳や配筋図作成にCADソフトを使用し作業の正確性と効率性向上に取り組んできた。また、梁の地組により、高さのある壁を地上で組み立てることで高所での作業を減らして作業の安全性と効率化を図る等、常に安全意識の普及と現場環境の改善に努め労働災害防止に貢献している。 平成26年北海道鉄筋業協同組合の理事に就任、技能検定委員を長きにわたって務め、後進技能者のレベルアップに積極的に取り組んでいるほか、現在は技能実習生の仕事の指導だけでなく、興味や適性のある作業を体験させ会社で働き続けたいと思わせる環境づくりも行っている。 業界の状況を考え、福利厚生をはじめとする諸問題の解決にも情熱を傾けている。

土 屋　英 樹 （　55 歳） 	造園師	（株）壽造園土木 苫小牧市	平成３年に造園師として入社し、日本古来の伝統的な技術のみならず、現代的なものを含めた多岐にわたる技術習得に励み、それを基に心を癒やすデザインを取り入れて造園業界の第一人者として評価されている。平成７年には手書きでの図面作成が主流の中いち早くCADソフトを使用し技術の推進に尽力した。美しい景観と自然環境との調和を重視する計画づくりを行い、植物の選定や植栽時期の検討さらには施工まで行うなど、その手法や成果は、自身が携わった火山灰堆積の土壌や塩害の多い苫小牧市域における「ふるさと海岸植栽計画」等の地域社会や造園計画に広く活用されている。また、札幌市の公園工事、栗山町や有珠ＳＡの植栽等を施工した。 長きにわたり造園各団体の役員を務め、技能者の指導を行ってきたほか、市民向け講習会の講師の育成にも力を注ぎ、幅広い技能者育成に寄与した。 自社の取締役会長となった現在も造園業務に従事し、業界の中心的役割を果たしている。
長 柄　一 久 （　64 歳）	鉄道車両組立工・修理工	北海道旅客鉄道（株）苗穂工場 札幌市	昭和56年に入社後現在に至るまで鉄道車両の検査・修繕業務に携わってきた。持ち前の研究心と豊かな創意工夫で鉄道の安全な安定輸送の確保や顧客満足度の向上に貢献してきた。 列車がすれ違う際の道床砕石飛散による破損から窓ガラスを保護するためのポリカーボネートは、客室窓と同じものを運転席等前面の窓に設置すると結露・着雪等で視認性が低下するため、防犯カメラの曇り止めに使用される透明導電膜に着目して「発熱ポリカーボネート」を考案、亀裂が発生しないよう段階温度制御方式を採用して問題の解決を図り、鉄道の冬季安全輸送対策に大きく寄与している。 平成20年より技能検定委員を務め、現在はその経験を持って技能検定の運営の中心的存在となり、技能士資格取得の推進に貢献、日々の業務を行いながら、旺盛な意欲を持って後進技能者の指導のみならず、検定委員の指導・育成にも継続的に取り組んでいる。
二 本 柳　司 （　50 歳） 	調理人	プレミアホテル CABIN PRESIDENT 函館 函館市	平成６年に調理師として職に就き、以降中国料理に従事してきた。常日頃より戸井等地場のマグロやハマグリ等の食材を使い、中華刺身や揚げ物等食材に合った調理法で新しいメニューの開発に取り組んでおり、中でも四川料理には定評がある。国産ニジマス中国料理コンクールやアルザス・ローヌのワインを楽しむ中国料理コンクール等数々の賞を受賞した。また、料理の盛り付けにも秀でており、盛り付け演出のひとつである野菜彫刻では、プロの調理人が勉強する教本にも掲載され、全国の中国料理演出技術向上の一助となっている。 日本中国料理協会の勉強会や北海道渡島総合振興局からの依頼事業で講師を務める等、学生から一般の方々まで幅広く指導育成している。 現在も現役調理人として観光客や市民に本場の中国料理を提供しながら、後進技能者の指導に情熱を注いでいる。
野 村　弘 典 （　51 歳） 	塗装工	中央建装工業（有） 札幌市	平成９年に塗装業に従事し、たゆまぬ研究心により卓越した塗装技術を習得してきた。大型商業施設の店舗等のエイジング塗装施工を積極的に進め、発注者の意向に的確に対応し仕上がりに関して高く評価されている。また、遮熱、断熱の塗料の効果が最大限発揮されるよう施工方法について研修や施工事例の視察等を行い、導入に積極的に取り組むとともに、住宅塗装においても、パテの使用方法を工夫し、効率的な施工をすることでメンテナンスをする居住者の負担軽減を図った。 平成20年からは札幌塗装技術学院で職業訓練指導員となり、平成25年からは副院長として若年技能者の育成に情熱をもって認定職業訓練を行ってきたほか、技能検定委員としても公正無私な姿勢で任務を果たしてきた。 現在でも自ら現場作業に従事し、現場の指揮・監督、従業員の技術指導にあたっている。
福 森　秀 希 （　48 歳） 	配管工	（株）福森工務店 苫小牧市	平成９年に配管工として入社し給排水衛生設備工事、空調設備工事に従事し、技能の研鑽に努めて精励し幾多の考案・改善によって作業能率の向上に貢献してきた。特に空調設備工事の技術の優秀性は業界第一人者と目されている。平成18年には冬期水道管凍結修理における蒸気解氷器を廃材を活用して製作、停電時や不測の事態の際でも凍結修理を可能とした。 各団体の役員として、様々な訓練、講習、インターンシップ等で企画、講師を務め、若年指導者、技能者を指導育成し、多くの技能検定試験合格者を輩出する傍ら、公共施設等の無償修繕の実施や、ものづくり体験教室等の社会貢献活動も行っている。 現在も管理者としての立場と同時に熟練配管工として、率先して現場に赴き、自ら複雑困難な作業の施工に従事している。
袰 田　眞 弓 （　71 歳） 	調理人	根室地方技能訓練協会 根室地方技能尊重運動推進協議会 中標津町	平成4年より中標津町学校給食センターに勤務し、約30年にわたり調理人として精励してきた。日々の努力により調理に関する高度な技能を習得し、給食の質の向上と地域の食文化の発展に大きく寄与している。特に包丁による切り込みや火加減調整等の基本調理技術に優れ、食品衛生・食品学・栄養学を学びながら専門調理師、調理技能士の資格を取得。その技術水準の高さから、管内調理人の第一人者として高く評価されている。ジビエやチーズといった地場産食材を活用した新しい料理を開発、地元のゴーダチーズを使用した「なかしべつチーズブルトンヌ」の開発に深く関わり、同商品は北海道の「北のハイグレード食品」に選定されている。調理講習会の講師を務める等若年技能士の育成にも尽力し、技能祭への参加やなかしべつ冬まつりのスタッフへの軽食提供等のボランティア活動にも汗を流す姿は、若年技能者の模範となっている。
松 木　一　巳 （　60 歳） 	板金工	（有）舟山板金製作所 旭川市	平成元年に板金工として入職以来、36年以上にわたり建築板金業務に従事。特に規格外の注文が多い住宅建築の現場において極めて高い精度で施工実績を重ね、多くの顧客から信頼されている。屋根の部位ごとに加重算定し分けて施工する手法を開発し、風雪からの被害を最小限に抑える技術改良に尽力。強度計算等の科学的技法を駆使し低コストと高強度を追求し、生産性を向上させた。また、高所作業の危機管理を徹底する等、安全衛生の面でも現場作業の改善に日々努めている。さらに若年技能者の育成にも熱心で、技能検定委員や講師として多くの有資格者を輩出している。小中学校での体験教室等では、板金技能の世界に触れてもらうことで業界への理解促進に努めてきた。 現在も現場にて施工を重ねており、高度な技術と豊富な経験で道内における建築板金業界の発展に寄与している。